若い力を活かした地域モデル活動を試行し、泉エリアを活気づける学生目線からの地域づくりの課題検証

仙台白百合女子大学
地域生き活きプロジェクト

1　事業実施団体について

事業実施団体の概要

仙台白百合女子大学　地域生き活きプロジェクト

〈団体の目的〉

高齢化が進む地域での高齢者の孤立化や、地域住民のつながりの希薄化が顕著である。そのような現状において、高齢者だけに対象を絞るのではなく子どもに着眼点を置き、子どもへの活動を通して年齢に関係ない地域交流を行い、高齢化した地域全体の活性化を図ることをめざす。

〈これまでの取り組み〉

2011
～2018年度　ゼミ活動として、大学周辺地域にてボランティアを行う。
地域イベントや町内会行事の運営補助等

2019
～2021年　学生団体として活動開始。仙台市泉区事業を活用し、これまでの活動に加え町内会行事における一部企画運営に携わる。
夏祭り内でのクイズ大会実施、秋の交流祭にて出店運営等

２　令和４年度の実施内容

（１）課題

- 地域の高齢化が進み、子どもや親などの若い世代の人々の町内活動への参加も少ない状況が各地で見られる。若者同士の地域交流もなく、お年寄り目線の地域づくりだけが進むと、若者の住みやすい・子育てしやすい地域になるか本当に疑わしい。
- 近年はコロナ禍により町内行事の中止も多く、地域活動も停滞している。地域活動を盛り上げていくためには、若い世代の人たちが積極的に活動できる環境があると無いとでは大きな違いがあり、高齢者の多い地域ほど、若い力を取り入れたまちづくりを本気になって取組んでいく必要がある。

（２）事業の目的

最終的に目指す姿

- 若い力を町内の地域活動に積極的に取り入れていくことにより、高齢化した住宅地の活気回復をめざす。
- 外部の学生だけでなく、普段から地域で暮らす小中高生や親世代など若い世代と連携した若者目線からの地域づくりをめざす。

２　令和４年度の実施内容

（３）令和４年度事業の目標と実績

- 学生目線からの課題検証を幅広く行うため、地域に暮らす子どもから大人・高齢者など様々な世代から成るコミュニティも配慮し、２００名程度の住民意見とニーズを聞き出す。
  【実績／アンケート･ヒアリングを通じ１８５名の意見聴取】

- 特に子育て世代などの若い世代からの意見は積極的に引き出し、モデルイベントに参加し学生等との交流を通じて町内活動などに継続的に関われる若者参加者を３０名程度に増やす。
  【実績／子ども会等の親世代中心に２５名に及ぶ継続参加者】

- 学生側活動者も私達団体組織の充実や他大学への働きかけなどを通じ、活動可能な協力者を３０人までに拡大する。
  【実績／尚絅学院・東北学院大に拡大し３０名の協力者達成】

２　令和４年度の実施内容

（４）事業の実施体制

氏名	役職	役割
高橋　美紅	団体代表	全体総括
小山　茜	団体事務局	調査のスケジュール調整
菊地　冬花	会計	事業費用の全体管理
佐藤　愛華	会計補佐	調査費用の進捗管理
佐藤　和	活動メンバー	活動調査の分担役
佐々木　穂佳	活動メンバー	住民ニーズ調査の分担役
鈴木　果恋	活動メンバー	若者会議の分担役

協力機関
【町内会】
鶴が丘地区
【他団体】
ICP(Izumi　Community　Project)、仙台白百合女子大学のクラブ・サークルやゼミ

２　令和４年度の実施内容

（５）事業スケジュールについて

活動月	活動内容
2022.6	町内会等と準備
2022.7	モデル活動検討
2022.8	モデル活動実施･参加者ｱﾝｹｰﾄ
2022.9	モデル活動検討･ｱﾝｹｰﾄ調査
2022.10	モデル活動実施
2022.11	住民ｱﾝｹｰﾄ調査･集計分析 モデル活動実施･参加者ﾋｱﾘﾝｸﾞ
2022.12	次期取組み活動の検討
2023.1	若い力を活かした地域づくり提案 アンケート結果の町内会報告
2023.2	今年度の活動評価
2023.3	事業のまとめ･活動報告書作成

（６）使用経費について

事業費総額　57万円

収入内訳
- 仙台市助成金　50万円
- 団体自己負担　7万円

支出内訳
- 人件費　26万円
- 旅費　6万円
- アンケート印刷　7万円
- 事務用品　6万円
- イベント活動費　4万円
- その他　8万円

３　実施した取り組みの紹介

（１）地域モデル活動／夏祭り子どもイベントの実施

【学生提案の地域モデル活動①】
８月６日／鶴が丘一丁目町内会夏祭り
内容／子供向けゲームの企画運営
参加者／小中学生･親など60名

●子供会の親と一緒にクイズゲームを制作
ステージ周りで親子と一緒に遊ぶ
●中学生と一緒にスマホゲームを制作
ＱＲコード使用のクイズで中学生と楽しむ

〈工夫した点〉
・出店と花火が中心だった夏祭りで、飲食無し・子ども達が楽しめる遊び中心で企画
・見ている周りも巻き込むようなゲーム進行

〈良かった点〉
・学生と30～40代の親御さんや中学生など様々な若者世代が交流しながら活動できた
・子供同士もクイズを通じて友達付き合いし見ている大人や年配者も一緒に楽しめた

３　実施した取り組みの紹介

（２）地域モデル活動／秋の交流イベントの実施

【学生提案の地域モデル活動②】
10月2日／鶴が丘一丁目町内会秋の交流祭
内容／ﾊﾛｳｨﾝ＆ｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰｸｲｽﾞの企画運営
参加者／幼児･小学生･高齢者など100名

●町内会役員と一緒に全体企画案を制作
　ハロウィン＆スタンプラリーコースの選定
●地域住民と一緒にクイズポイントを誘導
　学生がクイズを出し小学生･高齢者が楽しむ

〈工夫した点〉
・コロナ禍のため一点に人が集中しないよう時間差でのゲーム開始。積極的な声掛け。

〈良かった点〉
・クイズを通じ子どもの親御さんや地域住民との親しいコミュニュケーションを育んだ
・皆と一緒に歩くことで若々しい気分になり地域の健康的な活動に寄与できた

３　実施した取り組みの紹介

（３）地域モデル活動／冬の交流イベントの実施

【学生提案の地域モデル活動③】
11月27日／鶴が丘一丁目町内会落葉＆文化交流
内容／落葉拾いと子供アートの企画運営
参加者／幼児・小学生･親など80名

【モデル活動についてのアンケート調査の実施】
落葉＆文化イベントにおいて学生が企画したアート作品づくりについて観覧している人達の感想をシールを貼って表示するアンケートを実施
〇当日の活動時間帯　〇子どもの親など住民対象　〇回答数31件

子ども達にとって楽しい企画と喜ばれる声が圧倒的。
学生も含む若者活動に期待する声も数多く聞かれた。

４　事業の成果と今後の展開

事業の成果と今後の展開について

- 住民が集う地域行事に併せ子ども達との交流活動をモデル的に企画することで、子ども達の親も地域の高齢者も皆で元気になる場を創出し、多世代で地域を活性化させる新たな機会が得られた。
- 住民アンケートより地域活性化の起爆剤として大学生の参加が大きな力になることが評価され、若い力を活かしたまちづくりへの成果が得られた。

- 今後は、これらの活動を継続的に展開できる仕組みとして、学生だけでなく地域の若い世代ももっと取り込んだ環境づくりが重要であり、地域の子ども会・町内会などとの更なる取組みを続けていく必要があると考えている。